



平成23年産
JA米

水稻良質米栽培こよみ

JA兵庫みらい 三木営農生活センター
JA全農兵庫県本部
監修/ 加西農業改良普及センター

品種	月旬	5			6			7			8			9			10																																
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																														
山田錦	作業	播種			元肥			代かき			追肥			中干し			穂肥			出穂前			出穂後			刈取り			乾燥調整			土づくり																	
	内容	土壌改良・苦土重焼燐を施用する。			坪50株、2/3本植			茎数の確保			茎数16~18本で開始			飽水管理			出穂20日前			出穂10日前			いもち病に注意			出穂直前			カメムシ・ウンカに注意			カメムシ・ウンカに注意			(1株当たり20本)			落水			出穂後35日頃			稲実粉の90%が黄化した時			秋まき		
	水管理	代かき			湛水			飽水管理(土が湿っていて足跡には水がたまる程度)			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理											
	生育状況	育苗期			活着期			分けつ期			幼穂形成期			穂ばらみ期			出穂期			登熟期			成熟期			成熟期			成熟期			成熟期			成熟期														

品種	月旬	5			6			7			8			9			10																																
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																														
キヌヒカリ	作業	播種			元肥			代かき			追肥			中干し			穂肥			出穂前			出穂後			刈取り			乾燥調整			土づくり																	
	内容	土壌改良・苦土重焼燐を施用する。			坪60株、2/3本植			茎数の確保			茎数16~18本で開始			飽水管理			出穂20日前			出穂直前			いもち病に注意			出穂直前			カメムシ・ウンカに注意			カメムシ・ウンカに注意			(1株当たり23本)			落水			出穂後30日頃			稲実粉の85%が黄化した時			秋まき		
	水管理	代かき			湛水			飽水管理(土が湿っていて足跡には水がたまる程度)			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理														
	生育状況	育苗期			活着期			分けつ期			幼穂形成期			穂ばらみ期			出穂期			登熟期			成熟期			成熟期			成熟期			成熟期																	

品種	月旬	5			6			7			8			9			10																																
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																														
ヒノヒカリ	作業	播種			元肥			代かき			追肥			中干し			穂肥			出穂前			出穂後			刈取り			乾燥調整			土づくり																	
	内容	土壌改良・苦土重焼燐を施用する。			坪60株、2/3本植			茎数の確保			茎数16~18本で開始			飽水管理			出穂20日前			出穂直前			いもち病に注意			出穂直前			カメムシ・ウンカに注意			カメムシ・ウンカに注意			(1株当たり23本)			落水			出穂後35日頃			稲実粉の85%が黄化した時			秋まき		
	水管理	代かき			湛水			飽水管理(土が湿っていて足跡には水がたまる程度)			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理			飽水管理														
	生育状況	育苗期			活着期			分けつ期			幼穂形成期			穂ばらみ期			出穂期			登熟期			成熟期			成熟期			成熟期			成熟期																	



使用時期	病害虫名	使用薬剤名	使用量	使用薬剤名	使用量(10a)	使用時期	生育中に雑草が残った場合	
							除草剤	使用量(10a)
田植3日前 田植当日	いもち病 イネミズゾウムシ コブノメイガ ウンカ類 イネツトムシ 内類	Dr.オリゼプリンス 粒剤10	1箱当り 50g	サキドリEW (液剤) + トップガンGT1キロ粒剤51	500ml + 1kg	代かき 4日前 田植0 7日 10日 12日 14日	散布適期 サキドリEW 4日以上前 トップガンGT1キロ粒剤51	●ノビエ、及び一年生雑草の同時防除 クリンチャーバスメ液剤 1000ml/10a (希釈水量70~100リットル) 田植後15日~ノビエ5葉期 (収穫50日前まで)
田植3日前 田植当日	いもち病 イネミズゾウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ	デジタル コラトップアクタラ 箱粒剤	1箱当り 50g	トップガンGT1キロ粒剤51 又は トップガンフロアブル 又は トップガンLジャンボ	1kg 又は 500ml 又は 1パック(250g)	代かき 田植0 5~10日	散布適期	●一年生雑草(イネ科を除く)の防除 バサグラン液剤 500~700ml/10a 70~100リットルの水に希釈し、雑草 の茎葉に直接散布します。散布後 3日間は水を入れないで下さい。 田植後15日~50日 (収穫50日前まで)

除草剤の効果的な使用方法

- ① くれ返しはできるだけ深く、2回以上行って下さい。
- ② 畦畔からの水漏れを防いで下さい。
- ③ 代かきはできるだけ水を少なくし、トラクターのロータリー回転を落とし、田面が均平になるよう行って下さい。

④ 除草剤散布後3~4日間は水深3~5cmの湛水状態を保ち降雨があっても落水、かけ流しはしないで下さい。

⑤ ホタルイ等の雑草が多い場合は、サキドリEW+トップガンの体系処理がより効果的です。

⑥ フロアブル・ジャンボ剤の使用については、特に田面の均平を高め、水を保つように心がけて下さい。

※また、アオミドロ等の多発田では、十分な除草効果を発揮しませんのでご注意ください。

使用時期	病害虫名	基幹防除剤	臨機防除剤	使用量	品質向上のポイント		倒伏防止対策		斑点米対策		土づくり資材	
					基幹防除剤	臨機防除剤	倒伏防止対策	斑点米対策	資材名	保証成分 %	基準 (kg/10a)	
出穂20日前	紋枯病 コブノメイガ イネツトムシ フタオビコヤガ ニカメイチュウ	ラテラワイド 粉剤DL	ロムダンモンカットF 粉剤DL	4kg	●窒素(タンパク質)含有率を抑える ●施肥基準に準じた適正な施肥量を施用し、多肥はつづむ。 ●出穂期以降の追肥は絶対に行わない。	① 健苗の植付け、適正な植付密度、施肥管理、水管理により過繁茂を防ぎ、太茎にするとともに、株間の通風と採光を良くする。 ② 節間伸長期(出穂25日前以降)に窒素を効かせすぎないようにする。 ③ 紋枯病の防除。 ④ 中干し以降の飽水管理により根の活力を維持する。	(カメムシ防除が斑点米の発生を防ぎます) ① 水田周辺(農道・畦畔・休耕田等)の雑草を出穂の2週間前までに刈り取って下さい。 ② 畦畔からの飛び込みによる被害が多いので、畦から3mくらいを重点的に防除して下さい。 ③ 基幹防除は必ず行い、臨機防除については発生に応じて防除を行って下さい。 ④ 多発時、穂ぞろい期~傾穂期に薬剤を散布します。散布適期は、出穂後10~14日頃が目安です。	山田くん	アルカリ分 45% 珪酸 26% 苦土リン酸 4.5% リン酸 2.7% 窒素 1%	200kg		
出穂直前 (収穫14日前まで)	いもち病・紋枯病 ツマグロヨコバイ コブノメイガ、カメムシ類 イネツトムシ、ウンカ類	ラテラワイド 粉剤DL	トレボン粉剤DL	4kg	●こまめな水管理 ●飽水管理を行ない、水をためたまにしない。 ●出穂後の水不足や早期落水をさけ、粒の充実を図る。	① 水田周辺(農道・畦畔・休耕田等)の雑草を出穂の2週間前までに刈り取って下さい。 ② 畦畔からの飛び込みによる被害が多いので、畦から3mくらいを重点的に防除して下さい。 ③ 基幹防除は必ず行い、臨機防除については発生に応じて防除を行って下さい。 ④ 多発時、穂ぞろい期~傾穂期に薬剤を散布します。散布適期は、出穂後10~14日頃が目安です。	とれ太郎	アルカリ分 40% 珪酸 30% 苦土リン酸 12% リン酸 6%	60kg			
出穂10~14日後 (収穫7日前まで)	ツマグロヨコバイ ウンカ類 イネツトムシ カメムシ類	ラテラワイド 粉剤DL	トレボン粉剤DL	4kg	●適期刈り取り ●早刈り・刈り取り遅れに注意する。	① 水田周辺(農道・畦畔・休耕田等)の雑草を出穂の2週間前までに刈り取って下さい。 ② 畦畔からの飛び込みによる被害が多いので、畦から3mくらいを重点的に防除して下さい。 ③ 基幹防除は必ず行い、臨機防除については発生に応じて防除を行って下さい。 ④ 多発時、穂ぞろい期~傾穂期に薬剤を散布します。散布適期は、出穂後10~14日頃が目安です。	アヅミン	腐植酸 約50% 苦土 10%	40kg			
出穂20日前	紋枯病 コブノメイガ ニカメイチュウ	ルーバンリンパー 粒剤	ルーバンリンパー 粒剤	3kg	●ていねいな乾燥・調整 ●高温乾燥・過乾燥・急速乾燥に注意する。 ●むれ米に注意する。 ●ライスグレーターの調整を行い、屑米・被害粒を完全に選別。 ●仕上げ米に屑米が混入しないよう粉振り機の能率を調整する。 ※消費者の求めている米づくりをするため、品質・食味の向上をめざしてください。	●早刈り・刈り取り遅れに注意する。	苦土重焼燐	リン酸 35% 苦土 4.5%	40kg			
出穂10日前 (収穫35日前まで)	いもち病・紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ツマグロヨコバイ ウンカ類・カメムシ類	イモチエース スタークル粒剤	ルーバンリンパー 粒剤	3kg								

施肥基準

分肥体系	山田錦 (単位: 10a当りkg)							キヌヒカリ (単位: 10a当りkg)							ヒノヒカリ (単位: 10a当りkg)						
	肥料名 (保証成分%N・P・K)	総量	元肥	追肥	穂肥	成分量		肥料名 (保証成分%N・P・K)	総量	元肥	追肥	穂肥	成分量		肥料名 (保証成分%N・P・K)	総量	元肥	追肥	穂肥	成分量	
分肥体系	山田錦化成 12-14-16	20	20			2.4 2.8 3.2		JA兵庫みらい化成 14-12-14	35	35			4.9 4.2 4.9		JA兵庫みらい化成 14-12-14	35	35			4.9 4.2 4.9	
	苦土一番 (総合ミネラル肥料)	20~40		20~40		苦土12% けい酸20%(含有) 微量要素		苦土一番 (総合ミネラル肥料)	20		20		苦土12% けい酸20%(含有) 微量要素		苦土一番 (総合ミネラル肥料)	20		20		苦土12% けい酸20%(含有) 微量要素	
	穂肥有機 12-4-14	20			10 10	2.4 0.8 2.8		かん太郎有機 12-6-12	30			30	3.6 1.8 3.6		かん太郎有機 12-6-12	30			30	3.6 1.8 3.6	
省力体系	セラコートR555 15-15-15	30	30			4.5 4.5 4.5		LPSS特2号 14-14-14	40~50	40~50			5.6~7.0 5.6~7.0 5.6~7.0		EMコート045 20-14-15	40	40			8.0 5.6 6.0	
	苦土一番 (総合ミネラル肥料)	20~40		20~40		苦土12% けい酸20%(含有) 微量要素		苦土一番 (総合ミネラル肥料)	20		20		苦土12% けい酸20%(含有) 微量要素		苦土一番 (総合ミネラル肥料)	20		20		苦土12% けい酸20%(含有) 微量要素	
	●省力体系で側条施肥機の場合は、元肥量を25kgにして下さい。							●省力体系で側条施肥機の場合は、元肥量を1割減にして下さい。							●省力体系で側条施肥機の場合は、元肥量を35kgにして下さい。						